

- 【事前指導】毎朝、学級（学年、教科）のクラスルームで次のことを確認するよう、指導する。
- ・ GoogleMeetの開始時刻等の提示方法。
 - ・ クラスルーム（ストリーム等）に課題や対応の指示の確認方法。（・ IDやPassの入力方法を再度確認しておく。 ・ 課題を確認するまでの操作を確認しておく。）

オンライン朝の会

- ・ GoogleMeetを利用して、出欠確認や簡単なやりとりをする。
- ・ Googleフォームを利用して、健康状態等を確認し提出させ、フィードバックする。

オンライン授業の指導パーツ（例）

1 時間目

※容量には制限があります。授業をそのまま撮影して配信することはできません。

※児童・生徒用端末の予備機を指導用として使用することができます。教師用端末（WiFi）と児童・生徒用端末（LTE）を計画的に使分けしてください。

- 【開始】
- 授業開始時刻にMeetを開始し、本時の学習（ねらいや内容、学習の進み方）について説明する。
 - 授業開始時に本時の学習（ねらいや内容、学習の進め方）について動画をアップする。
 - 授業開始時に、ストリーム（掲示板）へ課題（ねらいや内容、学習の進め方）を提示する。

- 【展開】
- 指導者は、Meetを開始（開始時から接続維持）し、そのまま待機状態（教員用タブレット端末で学校WiFi環境に接続が前提）にしておく。
 - ・ 質問等がある児童・生徒がMeetに自由かつ個別に参加できるようにする。
 - ・ グループで時間帯を設定しておき、グループ活動（話し合い）を行う。
 - 指導者がGoogleドライブにファイルを共有し、児童・生徒が考えや意見等を書き込む。
 - ・ 共有された考え等を踏まえ、ストリーム（掲示板）に追加の活動等の指示を出す。
 - 指導者がヒントなどの個人解決を促す動画や資料等を共有する。
 - Meetを活用しながら、Jamboard等を使い、協働的な活動を行う。
 - 随時、オクリンク等で課題を提出させ、フィードバックする。
 - ドリルパークで学習する内容を指定し、個人学習を行う。

- 【終盤】
- 全員がMeetに参加し、授業の振り返りを行う。
 - Googleフォームでテストを配付し、習得状況を確認する。
 - Googleドライブに振り返りシート等を共有し、自己評価させ、フィードバックする。
 - 課題の解説動画をアップする。

※それぞれのオンライン授業の指導パーツ（例）を組み合わせ、実践をお願いします。

オンライン帰りの会

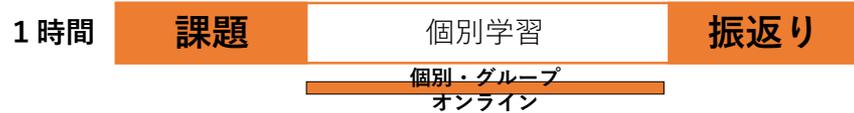
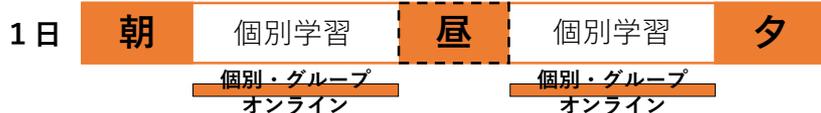
- ・ GoogleMeetを利用して、1日の振り返りや明日の確認等を行う。
- ・ Googleドライブにエクセル等のファイル（名簿付）を共有し、1日の振り返りを記入させる。

・ 各学校におかれましては、実践として積み重ねていくために、写真や動画等での記録をお願いします。

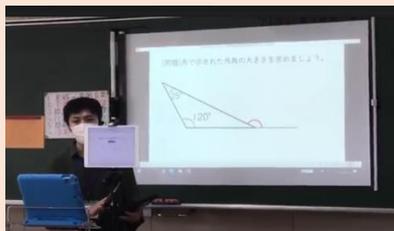
＜オンライン授業の形態＞ ※学年授業や学級授業など、各校が工夫してオンライン授業を実施しました。

① 1日を3回（朝夕の2回）に分けてつながる

② 1時間の授業の始めと終わりにつながる



＜授業の実際＞



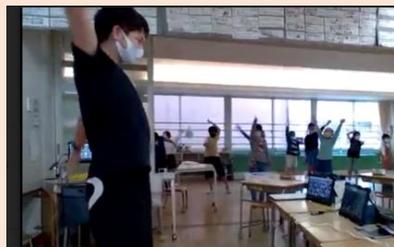
①学校と家庭がつながり同時双方向で授業を実施する。教員は、子どもの状況を確認しながら授業を進める。



③課題をクラスルームに提示し、個人で課題に取り組む。教員は、掲示板で個別に質問を受けたり、提出された課題へのフィードバックを行う。



⑤全体に課題を提示した後、グループ毎にオンラインでつながり、課題解決に向けた話し合い活動を行う。



②体育ではストレッチや体操をメインに体を動かす活動を行う。登校している子どもも一緒に運動する。



④事前に授業動画を作成し、クラスルームに配信する。子どもは、動画を見て課題を解決し、提出する。



⑥家庭で作成した作品を写真を撮って、オクリンクというソフトを使って提出する。子ども全員が作品を確認できる。

＜13日（月）通常再開＞



感染不安で欠席している子どもには、学級で行っている授業を同時双方向で家庭とつなぎ、学習の保障を行う。



休み時間には、校庭で遊ぶ活発な子どもたちの姿が見られました。

＜オンライン授業等期間で登校してきた児童・生徒（最大の平均値）＞ 小学校 12.4% 中学校 0.3% ※低学年が約1/4の登校

＜13日（月）以降で感染不安等で登校していない児童・生徒（最大の学校）＞ 小学校 20人（2.1%） 中学校 6人（2.1%）

成果

- ・経験年数や職層に関係なく、授業づくりやICT機器の活用について教え合う場面が見られ、教員個々のICT活用能力の向上につながった。
- ・学校全体で研究・研修が進み、組織力向上及び指導改善につながった。
- ・オンライン授業の指導方法が確立できた。

課題

- ・課題の量や質により、子どもの課題への意欲や主体性などに差が見られた。
- ・形態①、②の違いにより、オンライン接続の差が見られ、学習支援の方法に学校間の違いが見られた。
- ・ネットワーク環境（容量制限）により長期対応が難しいことが分かった。

今後に向けて

- ① 学校の一部又は全部を臨時に休業する場合の学習保障のためのモバイル端末の更なる利活用
- ② ①のノウハウを活用し、不登校等長期欠席児童・生徒に対する学習保障のためのモバイル端末の利活用
- ③ 通常の授業におけるモバイル端末の効果的利活用（協働学習、個に応じた学習、他校等とつながる遠隔・オンライン学習）